



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース68号

## 2019年度 催し物

毎月、さまざまな催し物を予定しています。夏休みは子供向けの体験学習が充実しています。

海苔に関するものや親子で楽しめる催し物などご用意して、皆様のご参加をお待ちしております。



開催日		催し物	対象	受付開始日
月	日・曜			
4	6日 (土)	海苔つけ体験	だれでも	満員御礼
	28日 (日)	緑のカーテンを編もう	小5以上	4月11日(木)
5	26日 (日)	海藻おしばづくり	だれでも	4月21日(日)
6	8日 (土)	あみあみペットボトルホルダーづくり	小5以上	5月11日(土)
7	21日 (日)	ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう	小1以上※	7月11日(木)
	28日 (日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	
	30日 (火)	タペストリーをつくろう	小3以上	
8	9日 (金)	<新>自然素材でフォトフレームづくり	小3以上	
	11日 (日)	自由研究で海苔を調べよう	小3以上	
	18日 (日)	フジツボを観察しよう	小3以上	
	22日 (木)	貝がら工作	小学生以下	
9	25日 (日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	
	8日 (日)	海苔簀づくり	小3以上	
10	23日 (月祝)	映像で知る海苔づくりいまむかし	だれでも	
	5日 (土)	海苔簀づくり	小3以上	8月11日 (日)
11	26日 (土)	浅草海苔のふるさと大森を歩く	小5以上	9月21日 (土)
	16日 (土)	海苔つけ体験	だれでも	10月11日 (金)
23日 (土祝)	海苔つけ体験	だれでも		
12	8日 (日)	海苔つけ体験	だれでも	11月11日 (月)
	22日 (日)	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小3以上	
1	12日 (日)	海苔つけ体験	だれでも	12月21日 (土)
	25日 (土)	海苔つけ体験	だれでも	
2	8日 (土)	海苔つけ体験	だれでも	11月11日 (月)
	16日 (日)	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小3以上	
3	14日 (土)	海苔つけ体験	だれでも	2月11日 (火祝)
	22日 (日)	海苔つけ体験	だれでも	

※ 小学生は保護者同伴。

催し物の詳細は、区報およびホームページでお知らせしています。

申込み：区報掲載日の午前9時より電話にて申込受付。土日祝日も受け付けています。

**申込・問合せ先：大森 海苔のふるさと館 電話：03-5471-0333**





# 年間の催し物

主な催し物をご紹介します。

## ■海藻おしばづくり

(10:00～、14:00～)

ノリや近くの浜辺の海藻で、海藻おしばを作ります。



## ■あみあみペットボトルホルダーづくり

(13:00～16:00)

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを入れるネット状のホルダーを作ります。

## ■海苔簀(のりす)づくり (13:30～16:00)

ヨシを使って海苔つけに使う海苔簀を作ります。

## ■浅草海苔のふるさと大森を歩く (13:00～)

浅草海苔の一大生産地だった大森の海岸エリアを巡り、海苔の史跡などを見学します。

## ■海苔つけ体験 (10:00～12:00)

生海苔から乾海苔を作る体験です。

## ■大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験

(10:00～12:00)

かつての大森伝統の海苔づくりの歴史や方法について解説を聞き、元生産者の手わざを体験します。海苔を学びたい方や好奇心旺盛な大人向きです。

## <夏休み子供向け体験学習会>

### ■ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう

(13:00～16:00)

ベカブネのペーパークラフトを作ります。

### ■タペストリーをつくろう (13:30～15:30)

海の紐の結び方を使ってタペストリーを編みます。

### ■浜辺の生き物探検隊

(9:30～12:30)

浜辺の生き物の観察をして身近な海の環境を学びます。



### ■(新)自然素材でフォトフレームづくり

(13:30～15:30)

植物のヨシを編んで、貝がらで飾りつけたフォトフレームを作ります。

### ■自由研究で海苔を調べよう (13:00～16:00)

海苔づくりの歴史のお話や道具体験、展示見学、質問タイムなど、海苔について学びます。

### ■フジツボを観察しよう (13:00～15:30)

海に沈めた板に付いたフジツボを調べます。動きを観察したり、違いを調べたり、実験や観察をします。

### ■貝がら工作

(9:30～、13:30～)

自然の貝がらを使って工作をします。



## ミニ・イベント

家族連れやお友だち同士でお気軽にご参加いただけます。

主催：NPO法人 海苔のふるさと会

### ■絵本の読み聞かせ&公園散歩

日にち：毎月第4火曜日 (12月は第3火曜日)

時間：11:00～11:30

### ■ひまわり・プロジェクト

耕しの巻：4月21日 (日)

種まきの巻：4月29日 (月祝)、30日 (火祝)

時間：13:30～14:30 (当日先着)

水やりの巻：5～7月の毎日

種とりの巻：9月14日 (土)

～16日 (月祝)

時間：9:00～17:00

### ■季節飾りと工作遊び

カブトをつくろう：5月4日 (土祝)、

5月5日 (日)

ハーブのてるてる坊主づくり：

6月2日 (日)

七夕飾りづくり：6月29日 (土)

ハーブのサシェづくり：

9月22日 (日)

貝のおひなさまづくり：

2月22日 (土)

時間：13:30～15:30

### ■観察会「浜辺の小さな生き物たち」

6月16日 (日)、10月14日 (月祝)

時間：13:30～15:30

### ■お月見コンサート

日にち：9月15日 (日)

時間：17:30～19:00

※小学生以上、要事前申し込み (9月より募集)



### ■天空ガーデンの手入れ

日にち：毎月第二火曜日 (8, 12, 1月は休み, 5, 7, 11月は第1火曜日)

植え替え：5, 11月

### ■大人の紙芝居

日にち：毎月第2木曜日

(7月は第1木曜日)

時間：13:30～14:30

### ■ほかにも!

GW：のりのり☆クイズ

夏休み：のり検定 (海苔のワークシート)

毎月：親子で昔遊び

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」68号

2019年4月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

## 海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



# 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報 大森 海苔のふるさと館 ニュース69号

## てくてく海苔と浜辺のまち歩きガイド 所要時間約50分 コース④

館の周辺をお散歩してみませんか。海苔や浜辺の面影が分かる場所を数回に分けて紹介します。

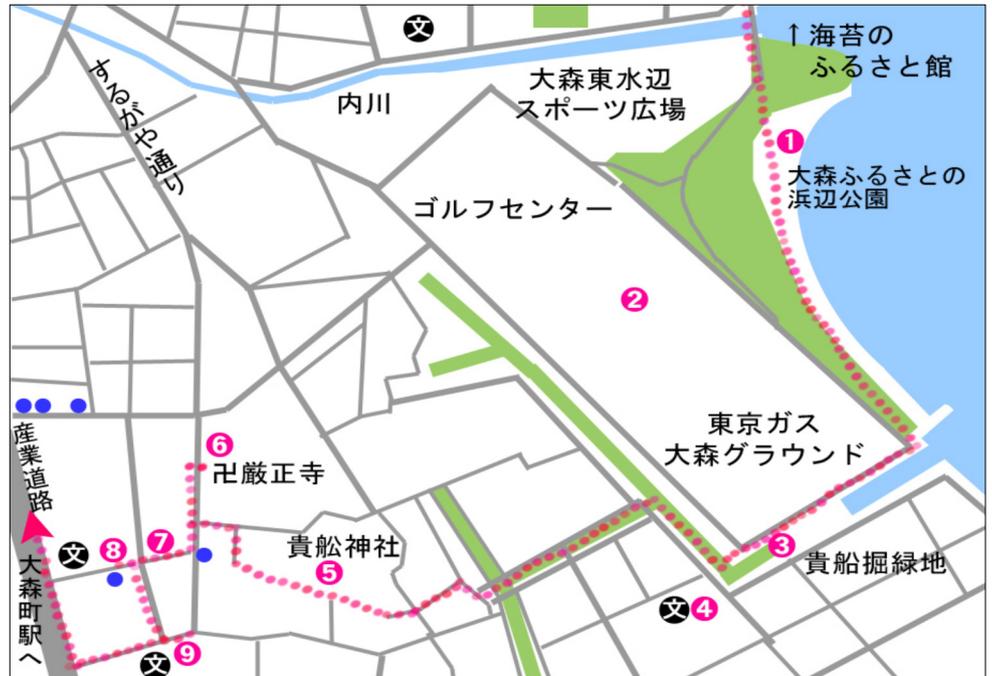
今回は、海苔のまち歩きには外せない海苔の史跡が詰まったコースです。当時はこのエリアの住民のほとんどが海苔生産に関わっていました。

貴船神社と厳正寺の周辺の細く曲がりくねった道は、江戸時代以前からここに人々が住んでいたため、耕地整理が行われなかったことを示しています。

潮風がかおる白い砂浜と小路をぶらぶら散歩してみませんか。

(五十嵐)

- は店頭販売している海苔問屋
- ※ 学校内は見学できません。



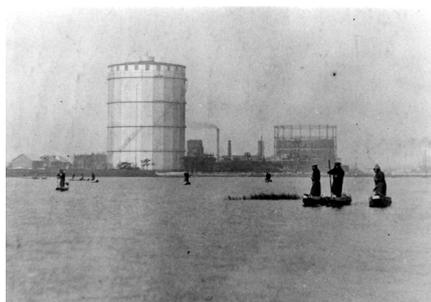
### ①大森ふるさとの浜辺公園

都内では初めての入江や干潟をもつ区立海浜公園として、平成19年(2007)4月に開園した。完成までには、区民参加によるワークショップや報告会などが開催され、区民の意見が取り入れられている。約400mの砂浜が広がり、磯遊びや海の生き物観察など自然を楽しむ。大森東水辺スポーツ広場、レストハウス、売店などの施設も利用できる。冬には、昔ながらの竹ヒビや海苔網を見学することもできる。



### ②東京ガス大森工場跡地

幕末の町打場(大砲の練習場)の跡地に、明治41年(1908)に開設された。海からだるま船で石炭を荷揚げし、石炭を燃やしてガスを製造した。漁場からはガスを貯蔵するガスホルダー(ガスタンク)がよく見え、目印になっていた。工場は昭和62年(1987)に閉鎖、その後グラウンドなどが整備された。



昭和10年代のガスタンクとベカブネ

### ③貴船掘緑地

貴船掘は、海苔船の河岸として利用された。春から秋には、岸にヒビや支柱などの資材が高く積み、冬は海苔干し場にもなっていた。海苔づくりが終わると、昭和55年(1980)に埋め立てられ、貴船掘緑地として緑豊かな人々の憩いの場に生まれ変わった。



昭和38年1月の貴船掘とガスタンク

### ④中富小学校

昭和25年 (1950) 創立。平成3年、校内に地域の元海苔生産者から寄贈された道具で海苔資料室を開設。元海苔生産者の協力で海苔つけ体験を行うなど、地域の特色を生かした授業を行っている。



### ⑥厳正寺

鎌倉時代創建。北条重時 (1198~1261) の六男法円が、文永9年 (1272) に海岸寺として創建。後に浄土真宗に改宗。

毎年7月14日には、約680年の歴史をもつ東京都の



無形民俗文化財「水止舞」が行われる。長雨を止めるための珍しい行事で、地元の青年たちによって伝統が受け継がれている。

### ③大森第一小学校 (元貴船小学校)

明治8年 (1875) 創立。当初は貴船小学校と称した。授業に海苔の学習を取り入れた田口久雄教諭の教え子たちは、漁業権放棄後に海苔の道具を収集し、区に寄贈した。その資料が、海苔のふるさと館の展示の基礎となっている。

校内には海苔資料室があり、元海苔生産者の指導で海苔つけ体験を行うなど、地元の伝統を学ぶ授業を行っている。



海苔資料室(平成29年撮影)

### ⑤貴船神社

鎌倉時代に創建。氏子の多くが海苔生産者で、海苔生産に関わる祈願が行われてきた。境内には、京浜運河埋立計画に伴う漁業養殖解散記念の石灯籠 (昭和16年建立) や、昭和37年12月の漁業権放棄の際の漁業納畢之碑 (昭和39年建立) など、海苔生産に関する碑が残り、大森の海苔の歴史を今に伝えている。



漁業納畢之碑

### ⑦大森漁業協同組合跡

昭和24年 (1949) に発足。昭和40年の解散まで、漁場の管理や配分、区画割り、資金の貸付や貯金などの信用事業も行った。

かつては組合の事務所は貴船掘の河口にあったが、昭和28年に近代的な共販入札の導入に伴い手狭になったことから、新たにこの場所に建てられた。

跡地は大森児童館になり、海苔の歴史を刻んだ記念碑が建っている。



### ⑨大森東中学校

戦後、進駐軍からの要請で東京ガスのガスホルダーの一つが撤去され、代わりにこの場所を接收して、昭和23年 (1948) に有水ホルダーが設置された。ガスタンクと呼ばれ街のシンボルだったが、昭和55年に解体され、昭和57年に大森東中学校が開校した。

無料配布中  
まち歩き冊子

海苔のまち歩きの手帳が完成しました。

大森の海苔の歴史、おすすめ見学スポットの解説に加えて、見やすいイラストマップ付きです。

当館のほか、近隣の関係施設でも配布しています。ぜひ、お手にとって、海苔のまち大森を散策してみてください。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」69号

令和元年6月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会  
会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース70号

## 大森ふるさとの浜辺で会える生き物たち

大森 海苔のふるさと館の近くには人工の砂浜があります。「大森ふるさとの浜辺公園(以下、ふる浜)」の海には一体どのような生き物がいるのでしょうか。当館で開催しているイベントで見つけた生き物たちをご紹介します!

### 【生き物たちが暮らすふる浜はどんな環境?】

ふる浜は2007年に造られた、人工の砂浜です。東京湾に面していますが、昭和島や京浜島などの埋立地、高速道路、モノレールなど多くの人工物に囲まれています。また、多摩川に続く支流もつながっており、海水と淡水が混ざり合う「汽水」域になっています。海にいる生き物も、川にいる生き物もどちらも姿を現すことがあります。砂浜から続く浅瀬には魚やエビ、それらをエサにする鳥たちなどが集まり、季節によって様々な生き物を見ることが出来ます。

### 【生き物を採る道具「投網」!】



夏休みの人気イベント「浜辺の生き物探検隊」では、魚を捕まえるために「投網」を使用します。網を丸く広げるように投げて、魚を捕獲する

方法です。一般的には漁業で使用される投網ですが、海苔のふるさと館では特別な許可を得て投げて

います。きれいに広がるように投げるにはコツが必要で、イベントで上手に投げられるように6月中旬から8月末にかけて毎週1回、ふる浜で練習をしています。



ボラが群れで捕まった

### 【ふる浜で見つかる生き物たち】

ふる浜にはたくさんの生き物が生息しています。ここでは、投網で採れる生き物をご紹介します。

『ボラ』…ふる浜の海面でよくジャンプしている魚です。80cm以上にもなる大型の魚で、ほぼ全世界の熱帯・亜熱帯域に分布しています。成長の段階で名前が変わる“出世魚”で、関東では若い順にオボコ・



イナッコ・スバシリ・イナ・ボラ・トドと呼ばれています。投網で採れるのはスバシリ・イナほどのサイズで、まれに40cmほどのボラが入るときもあります。

ボラは水の汚染にも強いので、都市部でもよく見られます。もとは海水魚ですが汽水～淡水域にも群れで遡上し、岩についた藻類などを食べています。高級珍味のカラスミは、ボラの卵巣を塩漬けにしたものです。

『マハゼ』…江戸前の代表的な魚として有名です。近年では数が激減してしまいましたが、ふる浜では波打ち際でよく見られる魚です。大きいもので15cm程度までなりますが、まれに20cm以上に成長することもあります。ふる浜ではビリンゴと混同されますが、マハゼの背ビレや尾ビレには矢羽状のきれいな模様が見られることが特徴です。ふる浜の磯場や見晴らし橋の近くではハゼ釣りをしている人をよく見かけます。



『ビリンゴ』…マハゼと同じようにふる浜の波打ち際でよく見られます。マハゼによく似ていますが、5cm程度でも立派な大人の魚です。ビリンゴは第一背ビレに黒い縁があるのでマハゼと区別ができます。ハゼの仲間ですが、海底にピッタリくっついていたりよりは海底より少し上で浮いて過ごしていることが多いです。



『クロダイ』…釣ってよし、食べてよしの人気の魚です。チヌと呼ばれることもあり、50cm程度に成長します。ふる浜で泳いでいる姿を見つけるのは難し

いですが、投網では稚魚～幼魚あたりの3～10cmほどのものが採れます。小さいうちは黒いヨコシマがはっきり見えるのが特徴です。大きいものは内川の河口で、橋の上から見つけることができます。成長するのに時間がかかる魚で、約30cm以上になるとオスからメスに性が変わる「性転換」をします。



『キチヌ』…クロダイにとってもそっくりですが、腹ビレ・臀ビレ・尾ビレの下方が黄色くなっているのが特徴です。関西では、ヒレが黄色いことから「キビレ」と呼ばれることもあります。クロダイと同じように泳いでいる姿は見つけにくいですが、投網では10cm前後の幼魚が採れます。クロダイとキチヌは、あまり数は採れませんが毎年出会える魚です。

『キチヌ』…クロダイにとってもそっくりですが、腹ビレ・臀ビレ・尾ビレの下方が黄色くなっているのが特徴です。関西では、ヒレが黄色いことから「キビレ」と呼ばれることもあります。クロダイと同じように泳いでいる姿は見つけにくいですが、投網では10cm前後の幼魚が採れます。クロダイとキチヌは、あまり数は採れませんが毎年出会える魚です。



『スズキ』…ボラと同様、成長段階で名前が変わる“出世魚”で、若いうちから順にヒカリゴ・コッパ・セイゴ・フッコ・スズキと呼ばれます。大きいものでは1m以上に成長し、シー

バス釣りでもとても人気がある魚です。大きいものは内川の橋の上から見つけることができます。投網では10cm前後ぐらいのものが採れます。高級魚として有名で、カルパッチョやムニエルなどお店でもよく提供されています。

【どんな生き物に出会えるかは運しだい！】

投網の練習は夏の時期だけですが、この3ヶ月だけでも海の様子は着実に変化します。6月中旬頃には小さいボラばかりだったのが、8月になると成長して大きくなっていたり、6月には採れていたクロダイやスズキが8月には採れなくなったり。季節の移り変わりを実感できます。また、降雨の後や猛暑の日などはあまり魚に遭遇できないことが多く、朝は見かけたのに夕方にはすっかりいなくなっていることもあります。さらには潮の干満によって、満潮に近づくと海の魚が採れたり、干潮に近づくと川の魚が採れたり。天候や時間帯、潮の動きによって出会える魚は変わります。どんな生き物に出会えるかはその日の運しだいです！みなさんもぜひ、ふる浜に行っているいろんな生き物を探してみてください♪

こんな生き物が採れたよ！という報告やこれは何？という質問など、お待ちしております！



(滝本)

新職員ごあいさつ



小嶋 卓斗

大学では明治以降の日本近代史を専攻し、学芸員となるべく勉強してきました。

音楽が好きで音楽鑑賞とバイオリン演奏が趣味です。

大森での海苔養殖の歴史やその道具について学び海苔つけの技術を身に付けて、それらを多くの人々に伝えていきたいと思っています。

まだまだ沢山学ぶことがありますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

企画展開催中



大森ふるさとの浜辺では、10年以上に渡って、モニタリンググループによる水質や生き物の調査が行われてきました。長年の調査によって分かってきたことをご紹介します。子ども向けのパネル、海の生き物の写真、クイズなど、親子でも楽しめる展示になっています。

ぜひ、東京湾の浅瀬の豊かさを感じ取り、実際に大森ふるさとの浜辺へ遊びに行ってみてください。

なお、企画展開催に当たりまして、東海大学、東京海洋大学、五洋建設株式会社様にご協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。（五十嵐）

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」70号

令和元年8月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区  
平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347



海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報  
**大森 海苔のふるさと館** ニュース71号

# 祝100万人達成!!



「大森 海苔のふるさと館」は、地域の歴史を伝える施設として平成20（2008）年4月6日に開館しました。12年目の令和元年9月15日（日）、開館以来の来館者数がついに100万人に達しました。これもひとえに、これまでご来館いただいた皆様一人一人のおかげとお礼申し上げます。

記念すべき100万人目は大田区萩中在住の川井さんでした。川井さんは普段からよく来館しており、この日は友人の市川さんと夜に行われる「お月見コンサート」を聴きにきたところだったそうです。お二人へはお月見コンサートが始まる前にNPO法人海苔のふるさと会の中村博理事長から記念品を贈呈し、コンサートを聴きにきた方々と一緒に祝いました。



川井さんからは「館内の展示品を見るたびに懐かしい想いで胸がいっぱいになります。また、3階の展望テラスから広々した公園を眺めると心身ともにリフレッシュします。

ふるさと館はいつ来ても新しい発見と感動があり、ワクワクします。みなさんもぜひ足を運んでみてください。」との挨拶をいただきました。

海苔のふるさと館には、国の重要有形民俗文化財



に指定されている貴重な道具類や子どもたちが楽しく学べる展示があります。また、様々な体

験型のイベントも毎月行われています。最近では、地域の方はもちろんのこと、日本国中さらには外国からの来館も増えており、年間9万人以上の方にご利用いただいています。これからも様々な方々の理解や協力を得ながら、より一層魅力ある施設となるよう職員一同努めてまいります。よろしくお願ひ申し上げます。



(小山)  
右、エレキギターの竹内進氏。  
左、フルートアンサンブルセシリアの皆様。すばらしい演奏で、お祝いに華を添えてくださいました。

## ふるさと館のウラガワ —資料受け入れ—

ふるさと館には、海苔に関する道具の情報が寄せられることがあります。そこで、普段はなかなか知ることの出来ない、資料の受け入れについてご紹介します。

ふるさと館に寄贈された道具は、大田区の資料として保存されます。永く保存するために、次のような様々な過程を経ています。

### ①道具の確認

地域の方が、ふるさと館に道具を持って来館されることもあれば、「道具を見に来てほしい」と電話がかかることもあります。

どちらの場合であっても、実際にもものを見て、受け入れるかどうかを決めます。カビや虫食い、サビなどがあり、他の資料に影響するおそれがあるものや、すでに複数受け入れているものなどはお預かりできない場合もあります。

受け入れが決まると、「道具」は「資料」として扱われることになります。

### ②情報収集

受け入れが決まったら、資料についてのお話を伺います。実際に使ったものなのか、どこで作ってもらったのか、どんなことに使ったのか、といった様々な情報を集めます。そうすることで、資料から当時の暮らしぶりが浮かび上がってきます。

### ③清掃作業（クリーニング）

受け入れ前の資料は、倉庫や物置などに納めておくことが多いので、ホコリやクモの巣などが付いていることがよくあります。汚れたままだと資料が傷んでしまうため、クリーニングをして、汚れを落とします。



刷毛や筆を使ってホコリを払い落としますが、毛が硬いと資料を傷めてしまうので、毛先の柔らかいものを使います。普段使っているものには、馬や豚の毛が使われています。

木製の資料は固く絞った雑巾で拭くこともありますが、一方で金属製の資料は雑巾で濡らすと錆びてしまうので、汚れを払い落とすだけにします。



資料の材質に応じて、適切なやり方や道具を選ぶことが大切です。

### ④くん蒸

くん蒸とは、資料を永く保管するために行う、消毒作業のことです。温室のようなテントを組み、その中に資料を入れ、約1週間かけて作業を行います。

くん蒸では目に見えないカビの菌や、奥底に隠れている虫を退治します。家庭用の殺虫剤ではそれらを退治しきれないので、専用の薬剤を使います。そのため、作業は専門の業者をお願いしています。



### ⑤保管・活用

くん蒸が終わったら、「収蔵庫」と呼ばれる部屋へ資料を移動させ、保管します。その際、資料1点1点を区別するために寄贈者の方の情報や、資料に関する情報を書いた札をつけます。

その後、保管している資料はふるさと館の展示で使ったり、来館者の体験用に使ったりと様々な場面で活用されています。



### 古い道具、探しています！

ポータなどの服や、海苔下駄、振り棒など、海苔の道具がご自宅にあれば、ぜひ一度ふるさと館にご連絡ください。大森の海苔の歴史を未来へつなげる、そんなきっかけになるかもしれません。

（三好）

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」71号

令和元年10月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会  
会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース72号



新年のご挨拶

海苔のふるさと会  
理事長 中村 博



明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、平素より館の発展のためご尽力  
いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

昨年、海苔のふるさと館は来館者100万人を達  
成いたしました。多くの方々に愛され、ご利用いた  
だいてきたことに深く感謝申し上げます。

昨年は、特に他の博物館等で大森の海苔を取り上  
げていただく機会がありました。

群馬県立自然史博物館の企画展「海の森」では、  
かつての大森での海苔づくりの紹介や当館の体験を  
元にした展示に協力しました。大田区の昭和のくら  
し博物館の企画展では、海苔の情景展示への資料貸  
し出しと海苔つけ体験の実施に協力しました。また、  
おさかなミュージアムからの依頼で、東京湾大感謝  
祭というイベントで大森の海苔の道具の展示とパネ  
ル展示をしました。

海苔づくりの原点、本場大森を評価していただい  
ている所以と感じております。他の地域の方々にも  
広くお伝えできること、たいへん喜ばしく感じてお  
ります。多くの方々のご期待に沿える  
よう、今後もより一層の成長に努めて  
まいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上  
げます。



企画展

## 海苔づくりの風景 —海苔つけという技術—

令和元年11月19日(火)  
～令和2年4月19日(日)

全国的には、生海苔を四角い板海苔にする作業は「海苔  
すき」という言葉で知られていますが、大森では「海苔つけ」と  
言いました。今回は、この呼び方とその技術に焦点を当て、  
海苔つけ作業風景を中心とした写真パネルの展示を  
しています。

生海苔を四角く成型する作業は、元々江戸時代  
には海苔簀の上に手で広げる「手広げ」でした。そ  
の後、紙漉きに近い方法の「家鴨付け(水付け)」が  
行われました。大森から千葉県人見村(現君津市)や広  
島県に海苔生産技術が伝播した際、この方法が伝わり、上総  
地域では昭和30年代まで、水付けが行われていた記録  
があります。

その後大田区では、水と混ぜた海苔を海苔簀  
に載せた枠の中へ投げつけるように広げる「投げ  
付け」という方法で行われるようになり、大田区で  
はその製造法から「海苔を付ける」と表現しました。

3階展望コーナーでは、日高勝彦氏撮影の大森の  
海苔生産に携わる人々の写真も展示しています。ぜひ、合わ  
せてご覧ください。

海苔つけと言わ  
れる理由は、投げ付け  
るこの技術からきてい  
ます。



大森の投げ付け(昭和30年代)

千葉県上総地方で  
は、江戸時代に大森か  
ら伝わった紙すきに近い  
水付けの方法でした。



上総地方の水付け(昭和30年代)



# 去年はこんなニュースがありました!

— 今年もよろしくお祝い申し上げます —

9月

## 来館者が100万人突破

9月15日、開館12年目にして来館者が100万人に達しました。この日開催のお月見コンサートにて、記念すべき100万人目の方に記念品を贈呈しました。

9月

## WEBサイトリニューアル

WEBサイトをリニューアルしました。情報量も増えて写真も大きく、見やすくなりました。

twitterやfacebookでは、最新情報の発信もしていますので、合わせてご利用ください。

<https://www.norimuseum.com/>

通年

## 外部のイベントに参加・協力

### \* 館のPR活動 \*

おおた商い観光展 (大田区産業プラザPIO)

### \* 発表 \*

海の環境教育フォーラムワークショップ実施

日本湿地学会パネルディスカッション

東京湾シンポジウムポスター発表

東京港野鳥公園30周年記念シンポジウム

日本藻類学会ポスター発表

### \* 出張事業 \*

エコフェスタワンダーランド (大森第五小学校)

野鳥公園・里地里山フェスティバル (東京港野鳥公園)

### \* 企画展協力 \*

昭和のくらし博物館

群馬県立自然史博物館

### \* 協力 \*

東京湾大感謝祭 (横浜赤レンガ倉庫) 展示協力

大田観光協会「大森海苔さんぽ」講師

東京バイオ専門学校の授業協力

東京シニア自然大学講師

京都造形芸術大学通信教育部の実習の講義

お台場のりへ昔の海苔づくり指導

大森西特別出張所「ふる浜まつり」にて海苔の体験

大森東特別出張所「いつつのわふれあい祭り」

にて海苔の体験

大田区福祉工場の就労体験受入 ほか多数実施

夏・秋

## 長梅雨、猛暑、台風襲来

梅雨明けは7月29日で、平年より8日遅く昨年より30日遅くなりました。梅雨明け後は、一転して厳しい猛暑が続きました。

9月には猛烈な台風15号が襲来し、生垣の倒壊、屋外施設のカバーや部品が外れるなどの被害がありました。

10月には再び台風19号が襲来。安全を考慮し、開館以来初めて臨時休館となりました。

通年

## スタンプラリーの開催

東京湾沿岸にある学習施設と協働で、「東京湾ぐるっとスタンプラリー」を実施しました。

「大田区夏休み博物館・記念館回遊スタンプラリー」、「旧東海道スタンプラリー」(2/2まで開催中)にも協力しています。



### 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森 海苔のふるさと館ニュース」72号

令和2年1月1日発行

編集・発行 特定非営利活動

法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

## 海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。  
会員には年6回、このニュースをお届けします。  
詳細は電話またはホームページにて。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース73号

## 海苔の生育観察 今年度の海苔生育の報告

浜辺での海苔生育観察について今年度の様子をご報告します。

### 【網張り】

大森ふるさとの浜辺公園（以下、ふる浜）にて、海苔網を張る作業「網張り」を行いました。12月14日、木更津で種付けしてもらった網をふる浜に出し、「とっくり結び」という結び方で支柱に固定しました。その後、しばらくは網が海面から出ないように、海面から60cmの深さで調節し、海苔の生長を待ちました。この段階の海苔はまだ弱いので、乾燥によるダメージを防ぐためです。



12月14日 網張り

### 【展開と防鳥ネット設置】

12月24日、そこから海苔の生長が見られたので、6枚重ねの網を3枚ずつに分ける「展開」という作業を行いました。網が重なっていると波によって網がこすれ、せっかく伸びた海苔がちぎれてしまうからです。



12月26日 3~4mm

さらにその後、鳥に食べられないように海苔網の上部に防鳥ネットを取り付けました。

### 【伸びては、短くなり…】

年末から年明けにかけて海苔の生長は良く、1月9日には平均3~4cm程、長いところで9cm程にまで伸びました。しかし、3日後には1cm程に短くなり、葉の数も減っていききました…。その後も生長が見られず、網の高さが良くないかもしれないということで、1月27日、陸側の南1区画分の海苔網を高さ0cmから150cmまでの傾斜をつけて張り、どの高さが一番よく海苔が生長するのか試してみることにしました。



1月9日 30~40mm

2月7日、網の海苔が再び伸び始め、3~4cm程になっていました。1月後半は天候がぐずついていたのですが、2月に入り安定した晴れの日が続いたためだと考えられます。が、11日には3~5mm程に短くなっていました。もしや、防鳥ネットをすり抜けて食べられているのでは？ということで、12日、試しに沖側の南1区画分の海苔網の下にも防鳥ネット取り付け、上下で挟んでみることにしました。2日後、その区画周辺の海苔が1cm程度になりました。斜めに張った網では80cm前後の高さの海苔が1~2

cm程度の長さになりました。18日、長いところで2cm程にはなりませんが、全体的にはあまり生長はしていないようです。



### 2月12日 下にも防鳥ネットを設置 【竹ヒビの海苔】

竹ヒビの海苔は今年も二次芽が付着し、1月30日に生長しているところを発見しました！昨年と比べ今年は数が増え、20カ所ほど確認できました。大きいところでは10cm以上の海苔も複数ありました。竹ヒビの高さを見てみると、海底から約10cm~40cmあたりに集中して海苔が生えていました。



### 2月2日 竹ヒビの海苔 【今年度の成果から…】

今年も収穫までは至りませんが、晴天が続き日射量が高ければ、ふる浜でも海苔が生長できるということがわかりました。網の高さは80cmあたりが良く伸び、竹ヒビでは海底から10cm~40cmあたりに海苔が良く付くことがわかりました。この結果は来シーズンの作業に活かし、海苔の収穫を目指します。

また、浜での作業中、たくさんの方々にお声掛けいただき、応援してくださいました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。かつて大田区の花見で見た海苔養殖風景の再現を通して、浜を訪れる皆様に海苔の魅力がもっと伝わるように今後も取り組んでいきたいと思ひます。

(滝本)



2月8日、元海苔生産者やはまどの会、学生ボランティアの方々と共に、海苔網の生育状況の見学を行いました。

この活動は多くの方々にご協力をいただき、小学校の授業や浜辺の景観づくり、ボランティアの学習などに活用しています。この様子は、どなたでも浜辺からご覧いただけます。

## 元海苔生産者の想い出

海苔つけ体験などの指導をさせていただいている協力者の方々からこれまでに伺った、想い出や海苔の作業などのお話をご紹介します。今回は、作業の時の服装についてお聞きしたお話をまとめました。

### ■鳴島光吉さん(昭和5年生まれ)

作業の時は手甲をしていましたが、後にコハゼが付いたコテッポができました。コハゼがあると袖が邪魔になりません。夏は単衣のコテッポを着ました。

冬の海の作業では、コテッポ、ポータ、ドテラ（綿入れの長着）などそれぞれ違う格好でした。コテッポは上にチャンチャンコを羽織ります。綿が入っているの尻も暖かくてよかったです。

ポータは女たちが一針一針刺してつくりました。自分はシヤのおばあちゃんにこしらえてもらいました。風を通さないけど前が開いてしまうので寒く、下にはセーターを着ました。海苔を採る時に袖を肘上までまくりやすいように、セーターの袖をボタンで取り外せるように作ってもらいました。コテッポもポータも袖だけは薄手にできているのはそのためです。



ポータ



夏、被布仕立てのコテッポ姿で作業  
撮影：日高勝彦氏



コハゼ

海苔船が普及する前（親の世代より上）は、ドテラを着てベカブネで海に出

ました。ベカブネは立ってこぐので、長くても邪魔ではありません。

かつてはみな禪に股引でしたが、下着がパンツに代わるとともにズボンをはくようになりました。昭和生まれの人はほとんどがズボンをはきました。股引はあつらえもの（手縫い）、ズボンはツルシンボ（既製品）でした。ダブル仕立ての刺子は高いけど暖かかったです。

### ■須山一雄さん(昭和7年生まれ)

冬の浜の作業はポータと股引を着ました。お祖父さんはドテラ、大お祖父ちゃん（曾祖父）は拾（着物）にドテラを着て作業していました。

自分たちのころは、ズボンをはくようになりました。縦縞のコールテンのズボンで暖かかったです。

### ■中村博さん(昭和10年生まれ)

ドテラも股引も着ませんでした。夏はワイシャツにズボン、冬はポータと毛糸のとつくりセーターも着ました。顔にはフランネルのほっかむりをしました。海は寒いから、タオルや手ぬぐいでは寒く、ネル生地は暖かくて貴重でした。外れやすいので、筒状にして目だけ出すようにして被りました。刺子はいいものはダブルボタンで暖かかったです。

(五十嵐)



股引

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」73号

令和2年3月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会  
会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。